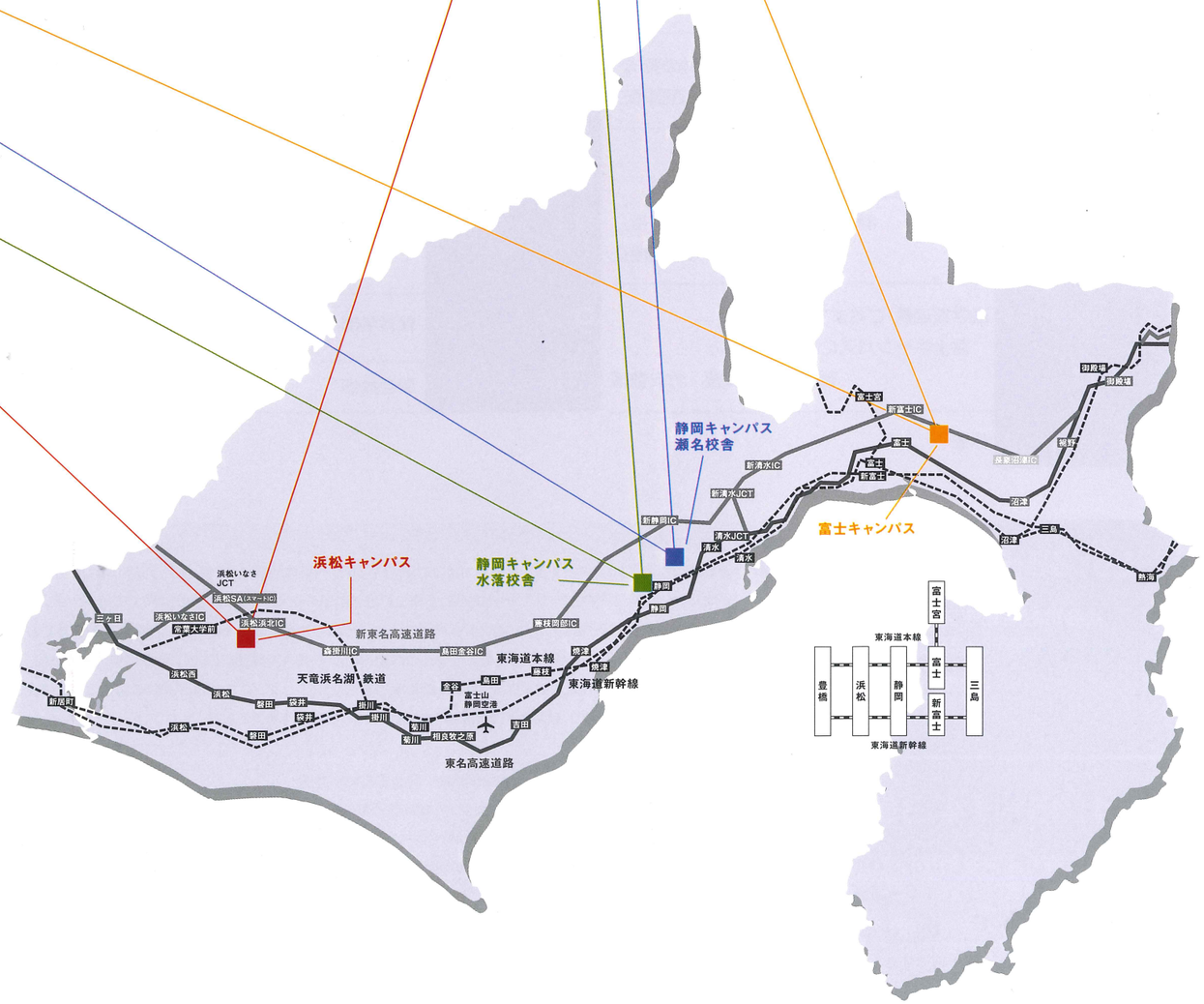
平成26年度
常葉大学地域社会連携事例報告会

常葉大学
TOKOHA UNIV.



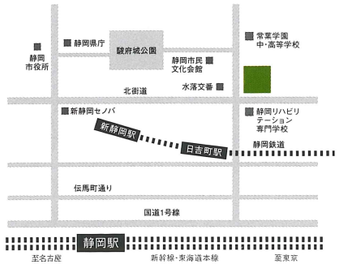
常葉大学
■ 富士キャンパス　〒417-0801 静岡県富士市大渕325番地

■ 静岡キャンパス・瀬名校舎　〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名一丁目22番１号

■ 静岡キャンパス・水落校舎　〒420-0831 静岡県静岡市葵区水落町１番30号

■ 浜松キャンパス　〒431-2102 静岡県浜松市北区都田町1230番地

会場　静岡キャンパス・水落校舎



常葉大学
地域社会連携事例報告会
常葉大学富士キャンパス
〒417-0801　静岡県富士市大渕325番地
TEL　0545-36-1133㈹
FAX　0545-36-2651㈹

平成26年度
常葉大学地域社会連携事例報告会

平成27年3月5日(木)13:30～
会場:常葉大学　水落校舎207教室

はじめに

「知徳兼備」「未来志向」「地域貢献」を三つの教育理念として、地域に根ざした大学を目指す常葉大学にとって地域社会との連携活動の推進は不可欠である。現状として、教員や学生が個々に地域社会に出て活動をしている例も多く見受けられる。しかし、組織的に地域社会との連携活動が活発におこなわれているとは言いがたい。そこで本報告会では、産学官連携に焦点をあて、産学官連携がどのようなものであり、具体的にどのような活動をしていくのかについて、常葉大学の教職員が考えていくことを目的として開催する。

プログラム

13:30	開会挨拶 エクステンション委員会 富士キャンパス分会長
1 13:35～14:05	社会貢献活動を活かした 創造的人材の育成 学長　西頭徳三
2 14:05～14:35	地域とともに輝く未来を目指して ―静岡理工科大学が果たす役割とは― 静岡理工科大学　総務部次長 久留島康仁
3 14:35～15:05	産学官連携・これまでの 富士キャンパスにおける取組み 経営学部　教授　竹安数博
15:05～15:20	休憩

15:20～16:50　地域社会連携共同研究事例報告

4 15:20～15:35	造形学部　造形学科	蜂谷充志
5 15:35～15:50	経営学部　経営学科(浜松C)	富澤　豊
6 15:50～16:05	教育学部　初等教育課程	久留戸涼子
7 16:05～16:20	経営学部　経営学科(富士C)	大久保あかね
8 16:20～16:35	健康プロデュース学部　健康鍼灸学科	有馬義貴
9 16:35～16:50	保育学部　保育学科	田口喜久恵
16:50	閉会挨拶	

1.13:35～14:05
社会貢献活動を活かした創造的人材の育成
西頭　徳三

役　職　常葉大学　学長

概　要　知識基盤社会とはイノベーションを機動力として、あらゆる部門・地域・国家が連携・協力する開かれた社会である。地元経済の牽引、地域コミュニティの復活、多様な課題に取組める人材の輩出、地域改革のプロモート等、常葉大学は多くの社会的要請に応えていきたいと考えている。こうした社会貢献は大学が地域社会発展の一端を担うものであり、学生をこれに実践的に参加させることが出来れば、社会人に成長していくことが期待できる。更に大学が地域社会と協働することにより、大学の教育研究の目をブラッシュアップでき、永続的に教育の改革を推進して行けるものと考えており、社会貢献活動は大学の創造的人材育成に不可欠である。

2.14:05～14:35
地域とともに輝く未来を目指して
－静岡理工科大学が果たす役割とは－
久留島　康仁

役　職　静岡理工科大学　総務部次長(総合技術研究所　社会連携担当次長)

概　要　平成3年4月に開学した静岡理工科大学は、「地域社会に貢献する技術者の育成」を使命とし、教育・研究・社会連携活動を進めてきました。今回、本学がいままで試行錯誤を繰り返しながら取り組んできた社会連携活動の概要などについて報告するとともに、「教職員が、すなわち教職員一人ひとりが担う役割」や「他組織とのコラボレーションによるwin-winの関係構築の重要性」などについて、私見を交えながら紹介します。

3.14:35～15:05
産学官連携・これまでの富士キャンパスにおける取組み
竹安　数博

役　職　経営学部　経営学科(富士キャンパス)　教授

概　要　産官学連携研究推進に向け、平成24年度(H.25.3.6)及び平成25年度(H.26.2.27)に説明会を富士キャンパスで実施した。24年度は6テーマ、25年度は9テーマの説明がなされた。研究シーズ紹介がメインではあるが、部分的には既に産官学連携がなされていたテーマもあった。それはより拡大を求めるために、説明がなされたというもの。興味深い内容が多く、今回、それらの概要を紹介する。

4.15:20～15:35
造形学部のこれまでの産学官連携の取り組み事例
蜂谷　充志

役　職　造形学部　造形学科　准教授

概　要　造形学部の研究内容と産学官連携共同研究をどのように考えるか、正解が見つけにくい課題である。しかし、美術分野の合同プロジェクトや教育啓蒙活動、デザイン分野の開発研究、地域との連携デザインなど、様々な方法で学外との連携を行ってきている。国、公立美術館、地方自治団体、他大学、民間企業との造形学部の特殊性のある連携形態を踏まえて、造形学部の先生方の事例を紹介する。

5.15:35～15:50
地域の商工会との取り組み
富澤　豊

役　職　経営学部　経営学科(浜松キャンパス)　副学科長・教授

概　要　2014年11月より、浜松キャンパスから至近の奥浜名湖商工会と、商工会加盟店を盛り上げる企画を学生たちが考える「バリューアッププロジェクト」がスタートした。当面は2015年2月末までに4社(店)の企画を練るプロジェクトであるが、応募多数により、3月以降も継続的に実施の予定である。また、本学だけでなく、近隣の高校も交え、地域一体となり、活性化を図ることを考えていきたい。

6.15:50～16:05
登呂遺跡での「田んぼの生き物観察会」
久留戸　涼子

役　職　教育学部　初等教育課程　准教授

概　要　静岡市登呂博物館の依頼により、平成25年7月から、登呂遺跡内水田水路での「田んぼの生き物観察会」を開催している。これまで社会科中心のイベントが多かったが、登呂に生息する生き物にも目を向けた企画を考えた。教育学部初等教育課程理科専攻のゼミ生に協力してもらい、小学生と一緒に1時間ほど、水田水路で生物採集をし、その後館内でスケッチ、発表という形式で行っている。これまでに平成25、26年の夏、秋、計4回行った。

7.16:05～16:20
富士市における産業観光を軸にした連携
大久保　あかね

役　職　経営学部　経営学科(富士キャンパス)　教授

概　要　富士市の観光市場の特徴を活かし、現状に即した観光振興の取り組みを産学連携で探る。
富士市は第2次産業の街である。特に製紙業、自動車関連産業などの第2次産業が市の発展をけん引してきたことは周知の事実である。一方で観光をはじめとする第3次産業に対しては、市民、行政、産業界ともに若干の「苦手」意識を持っていると思われる。そこで、年間60万人以上来訪している出張ビジネスマンを軸にした富士市ならではの観光政策を富士商工会議所などと協力して研究している。

8.16:20～16:35
鍼灸領域における産学連携研究
有馬　義貴

役　職　健康プロデュース学部　健康鍼灸学科　学科長・教授

概　要　鍼灸は、五感によって身体情報を収集する四診法で診察と効果判定を行い、生体表面を鍼・灸で刺激することで身体リズムを調整する治療法であり、数千年前から現在の形態の治療具が用いられている。その評価には①四診法の客観化、発展には②鍼灸用具の評価・開発が必要であり、①のためのセンシング技術、②のための微細・精密加工技術等を有する民間企業と連携し、硬さ測定器、刺さない鍼、火を使わない灸の開発研究を行っている。

9.16:35～16:50
乳幼児(0～2歳)における筋力発達経過の実証的検討
田口　喜久恵

役　職　保育学部　保育学科　教授

概　要　近年、生涯発達における“筋力”がクローズアップされ、人間の生命活動を支える筋力の重要性は健康寿命維持のキーワードの一つとされている。ひるがえって、発育発達期にある乳幼児にとっても、筋肉発達は身体機能発達の推進力として重要である。しかし、その成長発達経過は、乳児に関しては発現した運動機能によってのみ説明されている。今回、乳幼児に対応した乳幼児用握力計を用いて、0～2歳児の筋力発達の経過を実証的に検証することを試みた。